

# 首都圏地震 最大震度5強（10月7日）

10月7日 22:41、千葉県北西部を震源とする地震が発生し、首都圏の交通停止や水道管の損傷を引き起こした。東京都足立区、埼玉県川口市と宮代町では震度5強の揺れを観測し、8日時点の負傷者は計43名に上り、うち重傷者が4人と報告されている。東京23区内でこれほど大きな規模の地震が起こったのは2011年の東日本大震災以来、10年ぶりのことである。テレビや新聞ではさまざまな問題が指摘された。

## ①首都圏の交通マヒ

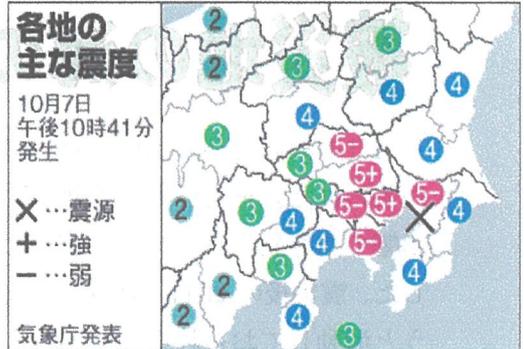
地震の発生時間が平日夜、鉄道がまだ運行する時間帯。途中駅での下車、帰宅難民者も主要駅であふれていた。翌日にも影響し、運休や遅延が生じた。足立区を走行中に脱輪した日暮里・舎人ライナー（右写真）の車両は線路から下ろされたが復旧に時間を要した。

## ②水道管の漏水

地震による水道管の損傷より、空気の抜くための「弁」から水が漏れ出した。「都市部では地下の電話線やガス管などを避けて水道管が敷かれることが多く、曲がった配管が増えると不具合が起きやすい」と専門家は見ている。また配管の老朽化対策も必要である。

## ③タワーマンション

エレベーターの停止による閉じ込め事案が多く発生した。専門家は「首都圏の直下地震ではあまり注目されてこなかった長周期地震動が大きく生じ、インフラへの被害が生じた可能性がある」と分析。高層ビルやマンションなどは影響を受けやすいとして、「直下地震を見据え、建造物を点検し直す必要がある」と訴えている。



地震発生の規模（朝日新聞 10月8日）

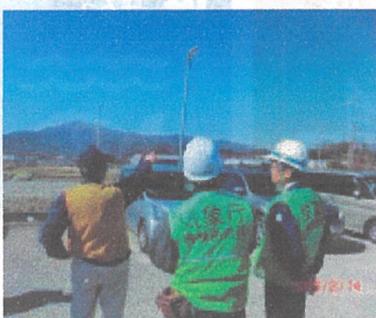


東京都内の様子（ANN NEWSch 10月8日）



## 気象庁の仕事

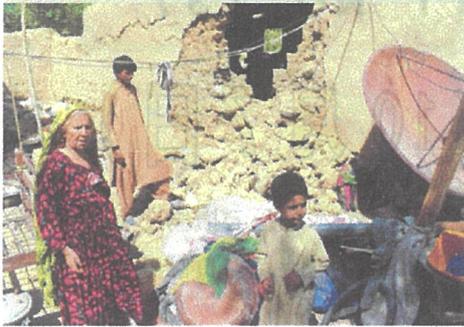
### 機動調査班



気象庁は自然災害が起こったとき、現状の災害規模や注意報・警報・避難指示勧告などを伝える役目を負っている。今回の首都圏で起きた地震についても、被害のある地域がどの程度のものか現地調査に向かったようだ。その地域に住む住民への聴き取りや、地震や豪雨によって地盤が変形していないか測定し、液状化や土砂崩れの二次被害が出ないように活動している。  
← 聴き取り調査をする様子（気象庁HPの紹介より）

# 世界で起きる地震

## (パキスタン)



パキスタン南西部バルチスタン州で10月7日未明、マグニチュード5.9の地震が発生した。1歳の男児を含む少なくとも20人が死亡、100人以上が負傷した。泥れんが造りの民家が多数倒壊し、就寝中の住民が下敷きになっているようだ。インターネットニュースのコメント内で、東北大学災害科学国際研究所の遠田晋次教授は「大陸プレート同士が衝突する地点で、日本の岩手県沖で起こった地震（10月6日）と同程度であったが、震源が浅かったため局所的に震度5強～6弱になった可能性もある」と指摘している。

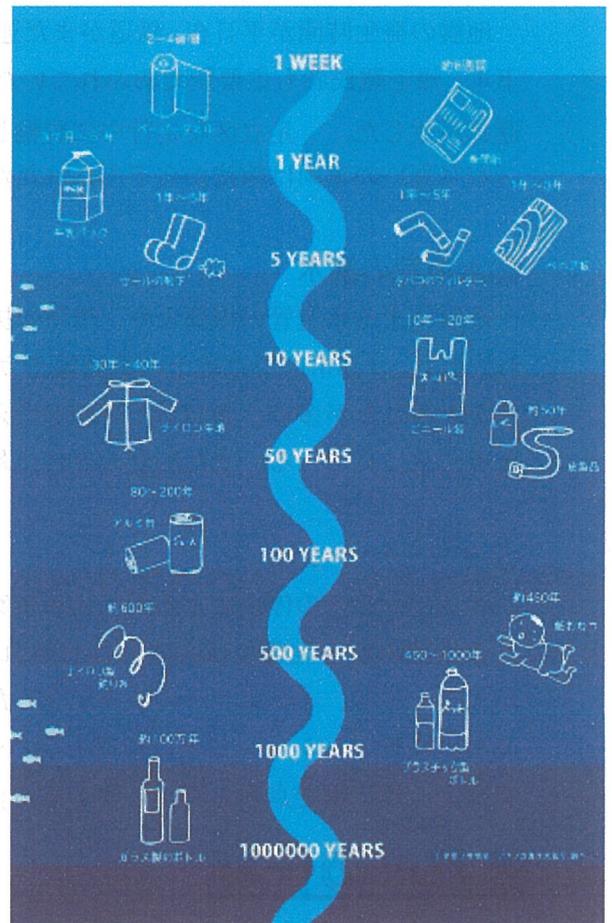
自宅が被害を受けた家族（朝日新聞10月8日）

# 被災地の海の環境保全（宮城県石巻市）

東日本大震災から10年が経ちました。私たちは今まで被害にあわれた方を支援する活動を行ってきましたが、海も震災の影響で生き物が住みにくい環境になり漁業にも被害がありました。震災後の2011年9月から以前のきれいな海を取り戻そうと活動しておられる方々がおられます。

ボランティアダイバーの佐藤寛志さんは海底の瓦礫を拾う活動や海藻を人工的に植え、藻場の生態系を整えることで環境再生を目指しています。この活動はまだ事態の深刻さが知られておらず、公的な取り組みも進んでいません。さらに海洋ごみの処理には膨大な費用が必要で、個人の活動で完全な海に戻すことは難しいです。私たちは今後このような馴染みのない活動に焦点を当て、支援する必要があると思います。またSDGsの解決すべき課題のなかにも海洋ごみによる汚染があり、「⑩住み続けられる街づくり」と、「⑭海の豊かさを守ろう」という目標に沿った活動でもあると思います。持続可能な社会を創るために、皆さんも活動に協力してほしいと考えます。

（実行委員長 亀山さんより）



### 平安女学院中学校高等学校の生徒へ

各クラスに常備されている「防災袋」の中に**軍手・マスク・水（5年保存）・カロリーメイト**は入っていますか？ **日頃から防災意識を持ちましょう！**

11 住み続けられるまちづくりを

14 海の豊かさを守ろう